

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	引き続き、基礎基本の定着を図るために、授業を中心に、朝の「基礎・基本タイム」や家庭学習が効果的になるようなマネジメントを学年を中心に行っていく。特に専科や教科担任制の授業が多くなる学年では教員と児童、教員同士の連携が不可欠なる。そういった穴をTeams等のクラウド活用でうめていきたい。また、各教科の「勉強が好き」という質問に肯定的回答が増えるようにするためには、本校の研究主題「できる喜び・学ぶ楽しさを味わい、自ら学ぶ児童の育成」の具現化につながる授業実践が必要と考える。
思考・判断・表現	定着した知識・技能をどのように活用するかが課題である。今年度の市学習状況調査「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」では学年による差があるため、活用する場面を重視する教材研究が必要だと考える。活用が資料活用の技能的な面にとどまらず、生活を豊かにしたり、新たな視点を見出したりするなど、児童が「生き生き」とする瞬間をつくっていききたい。そのためには、学習後の振り返りを大事にし、自律的な学びにつなげることが必要だと考える。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 苦手意識のある児童に向けた個別支援及び学力上位の児童を伸ばす手立ての両立 <指導上の課題> 既習事項を振り返ったり、学びをつなげたりする時間の確保。	学習内容の理解や把握のためにデジタル教材を活用し、児童の学習履歴を確認し、個別の手立てで考える時間を月に1回程度設定する。授業では授業中に児童が自ら学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。また、振り返りをふまえて、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する。【学校評価児童質問「学習内容はよくわかりますか」の肯定的回答90%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率に課題がある。 <指導上の課題> 思いや考えを様々な形で表現し、多様性を認め合える学習環境の醸成。	授業の中で必ず自分の意見をもつ時間や書き方の例を示したり、根拠や理由について児童に考えさせる活動を取り入れる。また、活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり表現したりすることができるようにする。【R6さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目で肯定的回答の割合が85%以上】。

全国学力・学習状況調査  
 <小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	学校評価児童質問「学習内容はよくわかりますか」の肯定的回答は94%となった。児童の実態を把握し授業が行われたと言える。児童の学習内容の把握については、ICTだけでなく、児童が取り組んだペーパーテストや作文等の成果物から行うことが多かった。振り返りをクラウドで管理し、考えの変容が教員もお互いに見え化する取組は一部で進んだ。また、デジタルの問題は今、自分に必要な問題を選べる利点があり、自然と自分の課題に向き合うことになった。一方で、市学習状況調査の生活習慣に関する調査において、家庭でのICT等を使った学習をしている児童の割合は市平均よりも下回り、自主的な活用は一部にとどまったが、市学習状況調査では一定の学力の維持及び向上が見られた。
思考・判断・表現	A	R6さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目で肯定的回答の割合が95.3%となった。各学年において、児童の考えを大切にしたい授業展開がしっかり行われ、それが、児童にとっても意味のあることと認識できるような学び方になっているのではないかと考える。市学習状況調査の同集団経年比較の結果をみると、確認できる4、5、6年の計8教科中6教科で思考・判断・表現のポイントが上がっており、下がっている2教科も1ポイント未満であった。各学年での授業の成果と考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数ともに、国や県の平均、過去3年間の本校の平均正答率と比較すると大きく上回っており、概ね理解していることが伺える。一方で、国語では、漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる問題と文中における主語と述語との関係を探えることができるかどうかをみる問題に課題がみられた。習得する漢字が増えると同音異義語の判断が課題になる。文の中で意味をとらえ、漢字を選択できる力を身に付けさせたい。主語・述語の関係は日常の会話でわかっているも聞き返すなど、定着を図る指導の努力が必要と考える。このような点をふまえて、朝学習の基礎基本の時間では、ICTを活用し課題とされる領域について発達段階に応じた問題を扱い、定着を確認する。また、思考力、判断力、表現力に活用できる知識及び技能の定着を授業を通して充実させたい。
思考・判断・表現	国語、算数ともに、国や県の平均、過去3年間の本校の平均正答率と比較すると大きく上回っていたが、今年度の本校の平均正答率を下回っていた。国語では「話すこと・聞くこと」の領域の問題において課題がみられた。複数の資料を用いて自分の考えを組み立てることを学年の発達段階に応じて授業中に意識していく必要があると考える。算数では球の直径の長さとか立方体の一方の長さの関係を探え立方体の体積の求め方を立式できるかどうかをみる問題では、必要のない条件を用いた誤答が多く、情報の精査に課題がみられた。また、速さやグラフの読み取りの問題では言葉と数で記述する問題の正答率が約半数にとどまった。算数における言語表現の定着を授業を通して充実させたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	各学年、各教科において平均正答率が市平均を上回っていた。また、学校平均正答率と知識・技能の平均正答率を比べると、各学年の国語・算数で学校平均正答率を上回る結果になっている。これは、基礎的・基本的な学習内容が各学年において定着していると考えられる。一方、6年の理科や社会では学校平均正答率を下回っていた。下学年の内容の問題で課題が見られた。知識の定着のためには、学習してきたことを積み重ねたり、生活との関連を図ったりすることの必要性があると考えられる。
思考・判断・表現	各学年、各教科において平均正答率が市平均を上回っていた。一方で、学校平均正答率と思考・判断・表現の平均正答率を比べると、各学年の国語・算数で学校平均正答率を下回る結果となった。各学年において、課題とする問題の領域に違いがあるが、複数の資料を読み取ったり、資料を活用する問題に課題がある。定着した知識・技能をどう生かしていくのかが問われていると考える。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	業前に週1回程度実施している基礎基本の時間を活用し、基礎的な学習内容の定着を目指して取り組んでいる。ICTを活用した学習履歴の確認をする時間の確保が課題となっている。児童の学習理解の定着を目指し、教員一人ひとりが手立てを考え授業公開をするなど、学校課題研修の授業実践に取り組んでいる。	変更なし
思考・判断・表現	B	学級経営を基盤とした授業づくりを心がけるようにしている。授業中はモデルを提示し、自分の目標や意見をもつて授業に参加できるようにしている。また、直接コミュニケーションをとったり、ICTを活用したりして考えを共有することで自分の考えが深められるよう支援をしている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)